

決算処理後に翌年度へ移行するまでの対応

勘定奉行 21 [個別原価管理編]シリーズにおける決算後の処理は以下のとおりです。

- ①決算終了後に、データコピー処理でバックアップデータを作成します。
 [随時処理]-[データコピー処理]メニュー
 (詳しくは、オペレーションマニュアル[随時処理]-[データコピー処理]をご参照ください。)



- ②今年度のデータを入力するため、新しい会社データを作成します。
 [随時処理]-[翌年度更新処理]メニュー
 (詳しくは、オペレーションマニュアル[随時処理]-[翌年度更新処理]をご参照ください。)



《こんな時は》

- ・前年度データを修正（伝票の追加・削除など）したい 2 ページ
- ・決算手続きが終了する前に、翌年度の伝票を入力したい 3 ページ

前年度データを修正（伝票の追加・削除）したい

①処理する年度を変更するために、[機能]-[会社選択]メニューを選択し、前年度データを選択します。



No.	会計期首年月日	決算期	会社名	作成日付	時刻
1	平成 22/ 4/ 1	17	OBCソフトウェア株式会社	22/ 7/22	09:52
1	平成 22/ 4/ 1	18	OBCソフトウェア株式会社	22/ 7/22	09:52

②伝票の追加・修正など、必要な処理を行います。

③伝票の追加・修正などによって残高が変更されます。
 変更後の残高を翌年度の会社データに反映させるために、[機能]-[繰越残高調整]メニューを実行します。
 最初に繰越元（前年度データ）の会社を選択し、続いて繰越先（今年度の会社データ）の会社を選択してください。
 （この処理は、何度行っても問題ありません。）



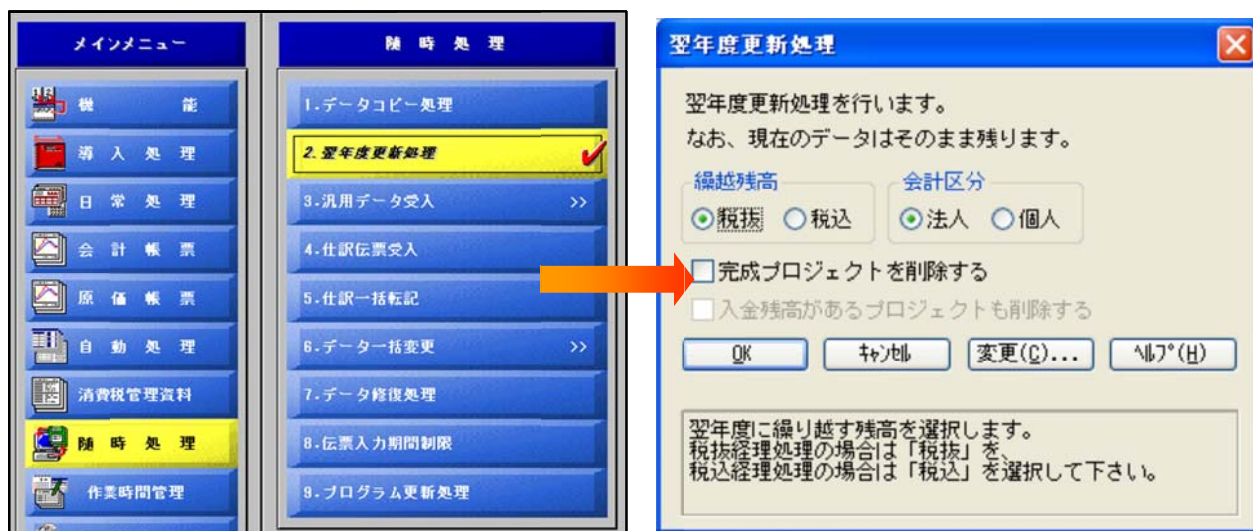
④処理する年度に変更するために、[機能]-[会社選択]メニューを選択し、今年度データを選択します。

決算手続きが終了する前に、翌年度の伝票を入力したい

翌年度の会社データを作成するには、[随時処理]-[翌年度更新処理]メニューで処理します。

注意！

- ◆ 翌年度更新処理を実行する前に必ず、[随時処理]-[データコピー処理]メニューでバックアップデータを作成してください。
- ◆ 翌年度更新処理前の元データはそのまま残り、削除されません。



「繰越残高」は、試算表や決算報告書を出力する時に税抜で出力している場合には「税抜金額」を、税込で出力している場合には「税込金額」を選択してください。

参考

今年度データと翌年度データを切り替える場合には、[機能]-[会社選択]メニューで選択してください。

No.	会計期首年月日	決算期	会社名	作成日付	時刻
1	平成 21/ 4/ 1	17	〇BCソフトウェア株式会社	22/ 7/22	09:52
1	平成 22/ 4/ 1	18	〇BCソフトウェア株式会社	22/ 7/22	09:52

以 上